

微笑みながらまちを守り続けて約半世紀



▶長之助氏が作製した自身の陶製像を囲む  
頼代さんと和美さん親子



## “撮っておき” の たかはま

【第28回】

「ひと」「もの」「文化」などなど、有形・無形を問わず、高浜市の日常の暮らしの中にあるとっておきの「お宝」を紹介します。

### 衣浦観音

高浜市のまちを見下ろすように立つ大きな観音様。だれもが一度は見上げたことがあるのではないだろうか。禰護山山頂の観音寺(青木町)にそびえるこの像は、鬼板師の浅井長之助氏(1892-1964)が製作し、陶管の窯元の森五郎作氏(1889-1967)が焼成して、昭和34年3月15日に完成した。高さは8メートルもあり、陶製の観音像としては日本一の大きさといわれる。

浅井長之助氏の孫と結婚した浅井頼代さん(二池町)によると、「夫の祖父は温厚で優しく、みんなのまちを守りたいという強い気持ちを含めてつくったと聞いています。製作には、かなりの月日をかけ、土の調合や焼成後の縮みを考慮するなど試行錯誤の末の大作でした。今は、市内には土管焼がなくなってしまったので同じものをつくることはできません。本人が72歳までは生きられるようにと72に分割して製作したそうですが、驚いたことに本人が亡くなったのは72歳でした。」とのこと。

頼代さんの娘で、家業を継いで会社を切り盛りする浅井和美さん(二池町)は、「曾祖父が亡くなったときに、私は母のお腹の中にいました。曾祖父の生まれ変わりとしてここにいる気がします。今は、事務所にある肖像に見守られながら、まるでいっしょに仕事をしているかのようです。瓦のよさが再認識されるように、今後曾祖父のような大きな仕事ができたら。」と語った。

観音様のように人のためにと働いていた長之助氏の意志を受け継ぎ、瓦の伝統文化を代々守っている方たちがいる。長之助氏が精魂込めてつくった観音像をじっくり眺めてみると、高浜市への彼の想いを感じられるかもしれない。

## LELA A PÁGINA EM PORTUGUÊS!

ポルトガル語のページを読んでください!

広報 **たかはま**

編集・発行／高浜市役所総合政策グループ  
〒444-1398 愛知県高浜市青木町四丁目1番地2  
TEL (0566) 52-1111 FAX (0566) 52-1110  
<http://www.city.takahama.lg.jp/>  
電子メール [info@city.takahama.lg.jp](mailto:info@city.takahama.lg.jp)

早期配布にご協力ください。